

Glocal Tenri



8

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.20 No.8 August 2019

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
「ほゝと云うて」
／堀内みどり 1
 - ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の様相 (32)
ニューヨークの日系人と天理教伝道 ③
／尾上貴行 2
 - ・ 日本語教育と海外伝道 (13)
侵略的日本語教育と国際交流のための日本語 ③
／大内泰夫 3
 - ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (11)
心理学・倫理学・教義学による反復＝出直し
の三重奏
／金子 昭 4
 - ・ 伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (18)
仏典翻訳の歴史とその変遷 ①
／成田道広 5
 - ・ 遺跡からのメッセージ (48)
弥生時代を再考する ② 森本六爾と唐古遺跡
／桑原久男 6
 - ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と
教えの伝播— (5)
1. ラテンアメリカ基礎知識の話
／清水直太郎 7
 - ・ ニューヨーク通信 (2)
地域社会とのつながりを求めて
／福井陽一 8
 - ・ ヴァチカン便り (39)
法王：政治家に一言
／山口英雄 9
 - ・ おやさと研究所ニュース 10
- 第 322 回研究報告会 (金子 昭) / 第 323 回研究報告会 (中西康裕) / 「第 16 回国際連合灌仏会を祝う会 (The 16th United Nations Day of Vesak Celebrations [UNDV] 2019)」に参加して (堀内みどり) / 2019 年度公開教学講座の案内 / 『グローバル天理』年間購読のご案内

巻頭言

「ほゝと云うて」

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

「一つ心、我と我がでに我が身を責める」というような“我が身思案”になってしまっ
て。あちらでほゝ、こちらでおほゝと云うて居たらよい。又何でこうせにやならん
ところ、この「あちらでほゝ、こち
思い、心あちらでほゝ、こちらでほゝと言
うて居たらよいのやで。一つの心が身に
付き、何処も悪いのやないで。病でもな
い。心澄み切れば、そのまゝ何にも難し
い事は無い。あちらでほゝ、こちらでほゝ、
と云うて居たらよいのやで。家へ帰^{うち}りて、
篤^{とく}と云うて聞かせ。」(明治 20 年 3 月 梶
本松治郎父上身上の御願)

おやさと研究所は、月例で研究報告会を
行っています。学内外の研究者の方にそれ
ぞれの研究について語っていただき、質疑
するというものです。6 月の研究報告会
では、「115 歳定命」が取り上げられました。
その報告会の終盤で、高見宇造先生が紹介
されたのが、冒頭の「おさしづ」です。

定命が 115 歳と定まることが、「陽気ぐ
らし」の一つの様態を示しているとすれ
ば、その時、人は、朗らかに「あちらでほゝ、
こちらでほゝと云うて」居ることができ
るのでしょう。また、日々の暮らしの中で、
「あちらでほゝ、こちらでほゝ」という一
つの心が身に着き、「心澄み切れば、その
まゝ何にも難しい事は無い」人生になる
とも教えられているようです。

教祖の暖かさが直に感じられ、その優
しさが伝わってくるような言葉です。と
ころが、その言葉に心身を委ねてみるこ
とはなかなかできにくいのが現実です。
人には、「考える」力が与えられています
ので、それでいろいろと考え込んでしま
い、悩みの種を増やしてしまうこともあ
りがちです。こういった場合、“自分”の
ことにとらわれてしまっていて、“相手”
や“他のひと”のことに思いが至らないと

「皆々あちらこちら事情々々と解け合わ
ん。解け合わんから、この一つどうも分か
らん。分からんから身に障り。……あち
らほゝこちらほゝ。又あちら見てうはんこ
ちら見てうはん、どうもならん。よう聞き
分け。さしづ一つの理より頼り無い程に。
あちら眺めてもほゝ、楽しみ知らしてあ
る。なれど、どうもならん。めんへで
解けようまい。あちらこちらほこりへ、
ほこり掃き取りて掃除せにやならん。」

人はひとりで生きているわけではない、
としばしば言われます。このような感覚・
思いは「互いにたすけ」ということの土台
にあるとも言えます。しかしながら、そう
した人と人との関わりや繋がりがうまくい
かない時が間々あり、「解け合わん」とい
うことも出てくるということでしょうか。
それでも「さしづ一つの理」によって「あ
ちら眺めてもほゝ、楽しみ知らしてある」
と語られ、最後に「(押しして願) 互い心運
び合うてくれへ」と願われています。

教祖の言葉 (あるいは宗教の言葉) は時
空を超えて、生きている人々に直に働きか
けています。その働きを受容できるのも、
心の自由があるからでありましょう。心を
働かせ、「互い心運び合う」人と人の関わり
が「社会」を善導していくことでしょう。

※ 7 月 2 日付で高見宇造所長が辞任し、永尾教
昭学長が所長を兼任することになりました。当
面、堀内がこの欄を担当致します。